



AI時代の高速な開発を支える ガードレールとしての自動テスト

JaSST'25 Kansai テクノロジーセッション
Takuya Suemura @ Autify, Inc.

今日話すこと

- アジャイル開発やAIコーディングエージェントの台頭で
開発速度は非常に早くなっている
- フェーズゲート型のテストからガードレールとしてのテストに
切り替えていく必要がある
- そのために自動テストが持つべき性質は？

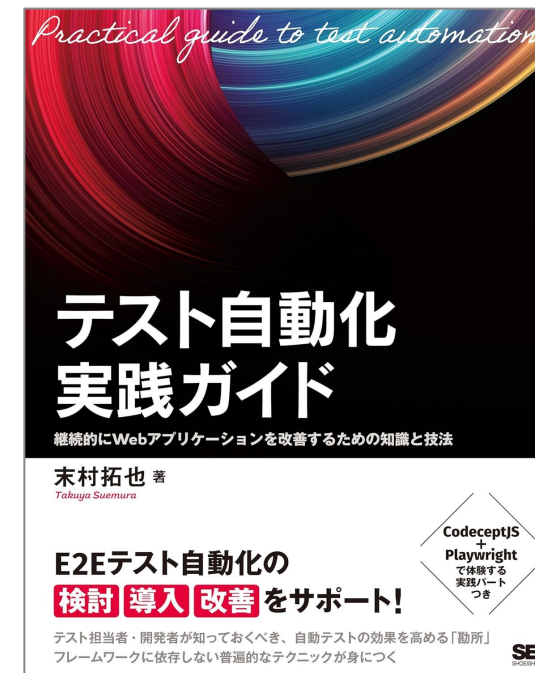


Takuya Suemura

Quality Evangelist @ Autify, Inc. (2024~)
Senior TSE , QA Manager @ Autify, Inc. (2019~)
Logistics / QA Engineer @ OPENLOGI (2017~)



@tsueeemura



会社概要・沿革



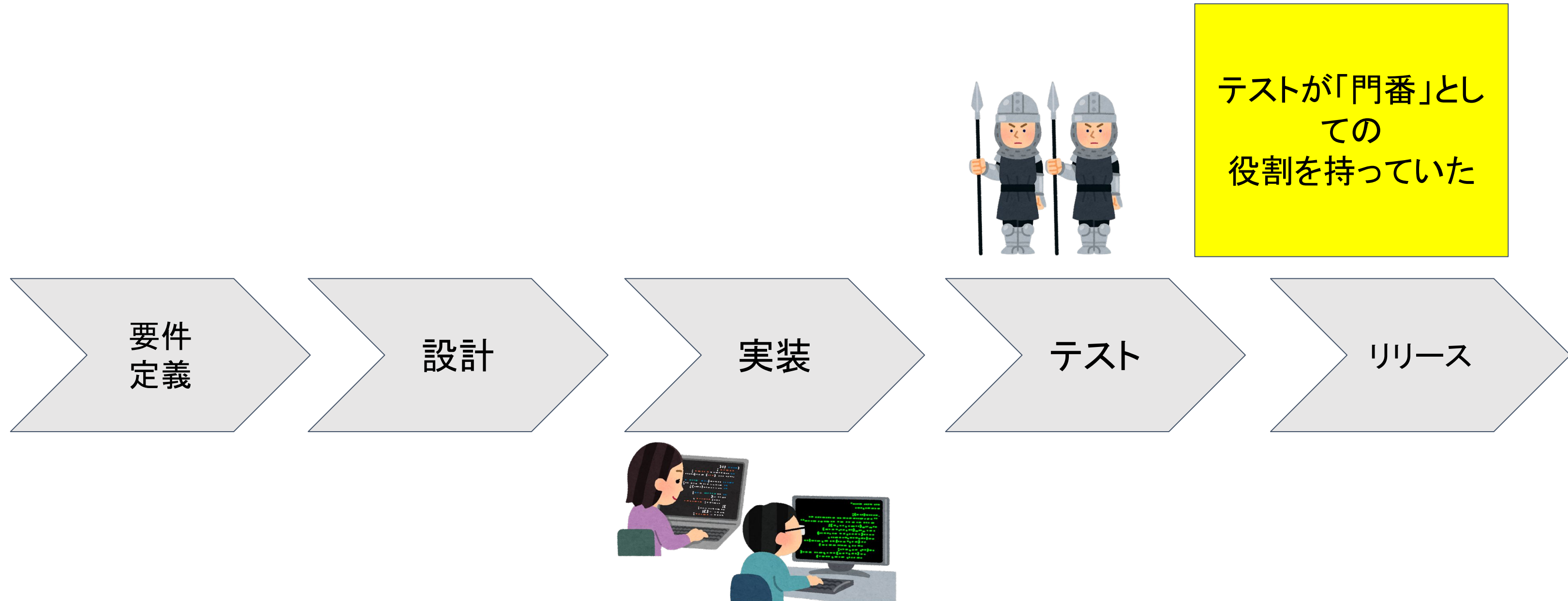
US本社・日本支社

本社	米国カリフォルニア州サンフランシスコ
日本支社	東京都中央区東日本橋2丁目22-1 クロスシー東日本橋ビル6階
設立	2016年9月2日
事業内容	AIによるソフトウェアテスト自動化・効率化ソリューションの開発・販売、品質保証サービスの提供
従業員数	104名
2016年9月	米国サンフランシスコにて創業
2019年2月	Alchemist Acceleratorを卒業
2019年7月	シードラウンド\$2.5Mの資金調達
2019年10月	Autify 正式ローンチ
2020年4月	Autify 累計導入組織数が100を突破
2021年10月	WiL, Uncorrelated, Jonathan Seigel などから シリーズAラウンド\$10Mの資金調達 Autify for Mobile 正式ローンチ
2024年3月	Globis Capital Partners, LG Technology Ventures などから \$13Mの資金調達
2024年6月	リブランディングを発表：「Autify NoCode」「Autify Genesis」 「Autify Pro Service」で包括的な開発・テスト支援へ

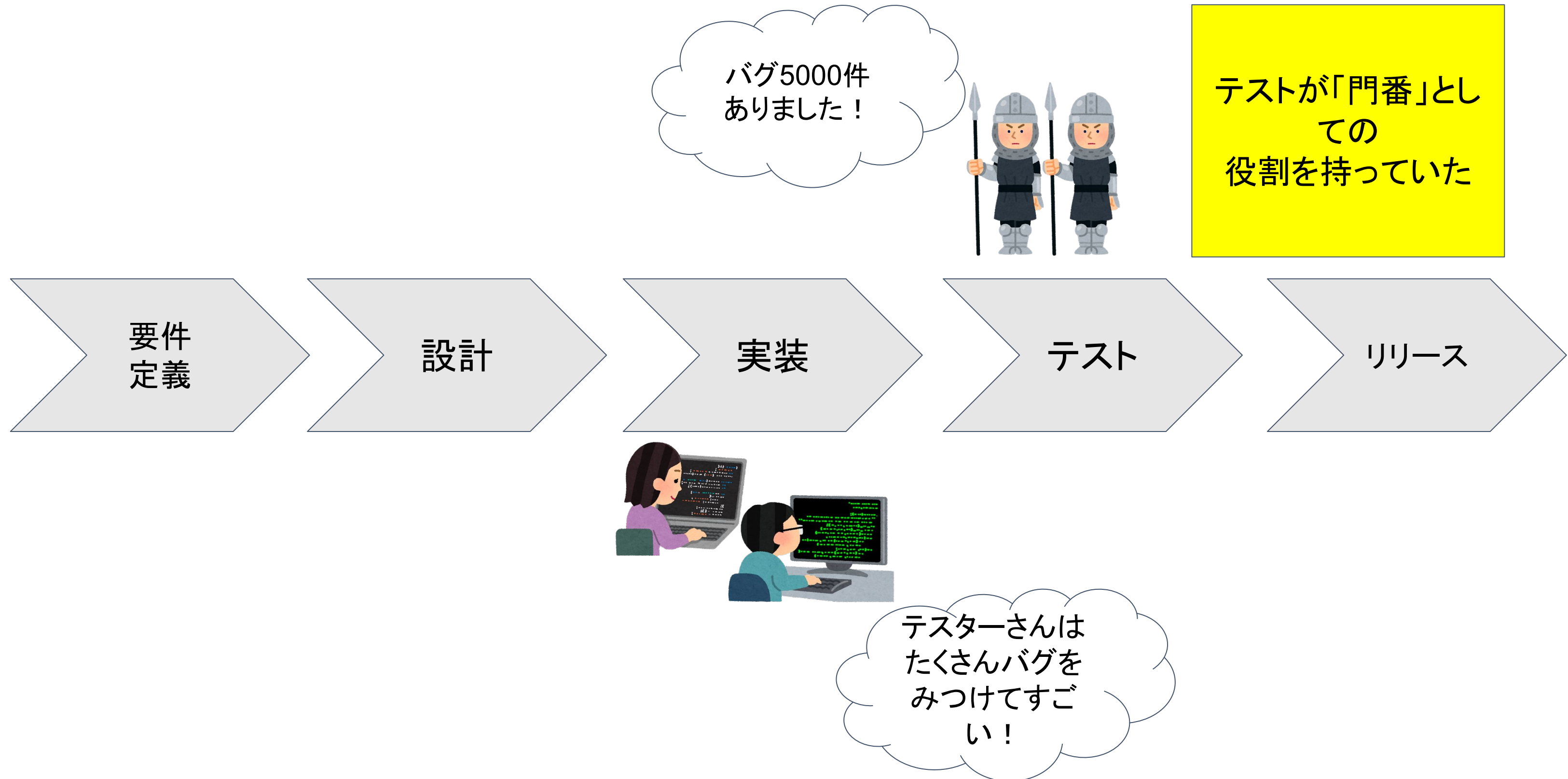
※創業から2018年10月までの事業模索期からAutifyにたどり着くまでのストーリー
「顧客のBurning needsを解決する」(<https://chikathreesix.com/burning-needs>)

怖い話

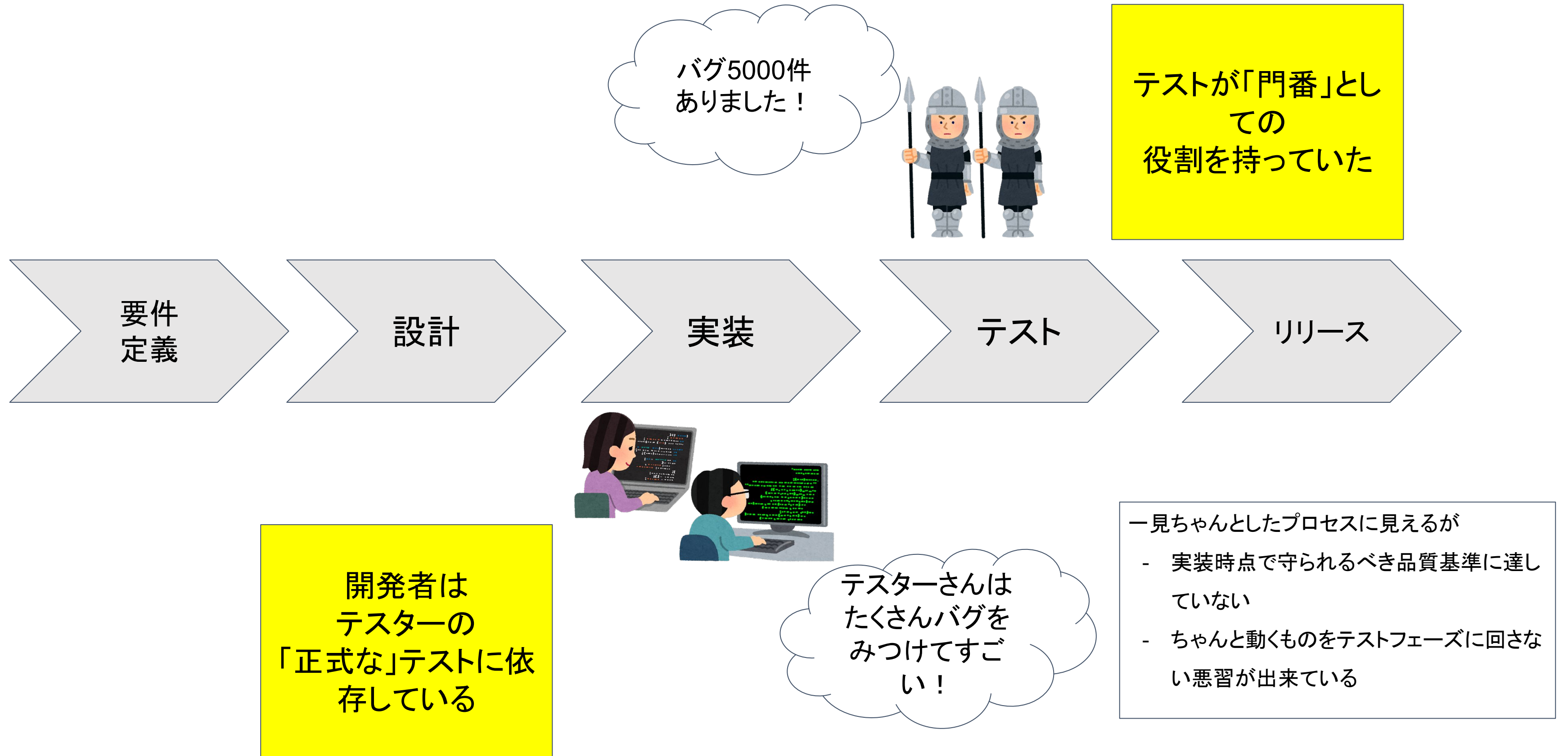
ある会社の話



ある会社の話



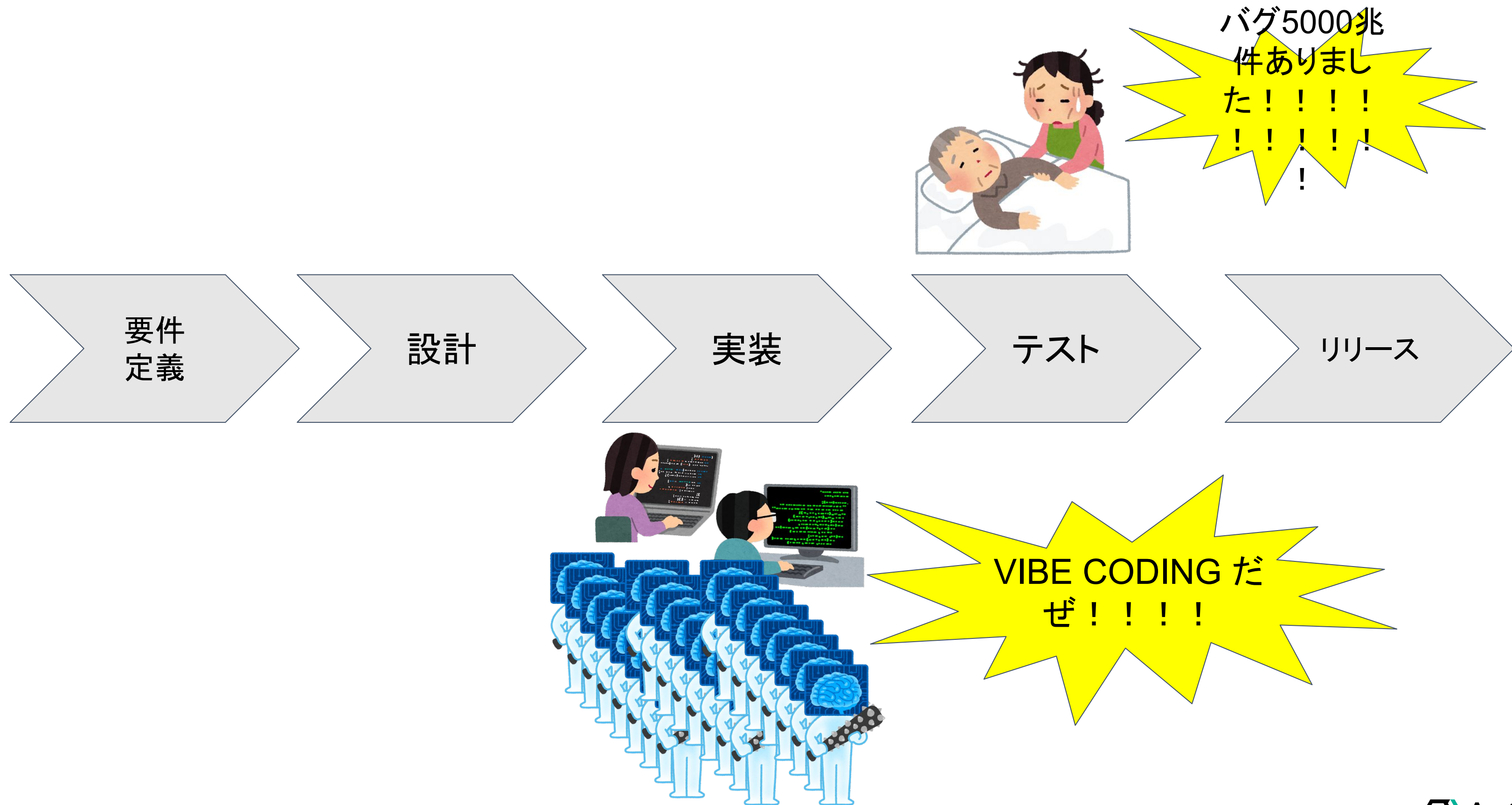
ある会社の話



ある会社の話



この状態で生成 AIが来るとどうなるか



AIの介護で疲れないうために

ガードレール

- 安心して開発を進めるための「ここから出ちゃダメよ」ライン
- プラットフォームエンジニアリングで良く使われる表現の一つ
 - ガイドライン: 推奨されるベストプラクティス
 - ガードレール: 自動化された制約
 - ゴールデンパス: 最適な開発パス
- プラットフォームエンジニアリングではセキュリティがガードレールの一つとして挙げられる

自動テストもガードレールになりうる

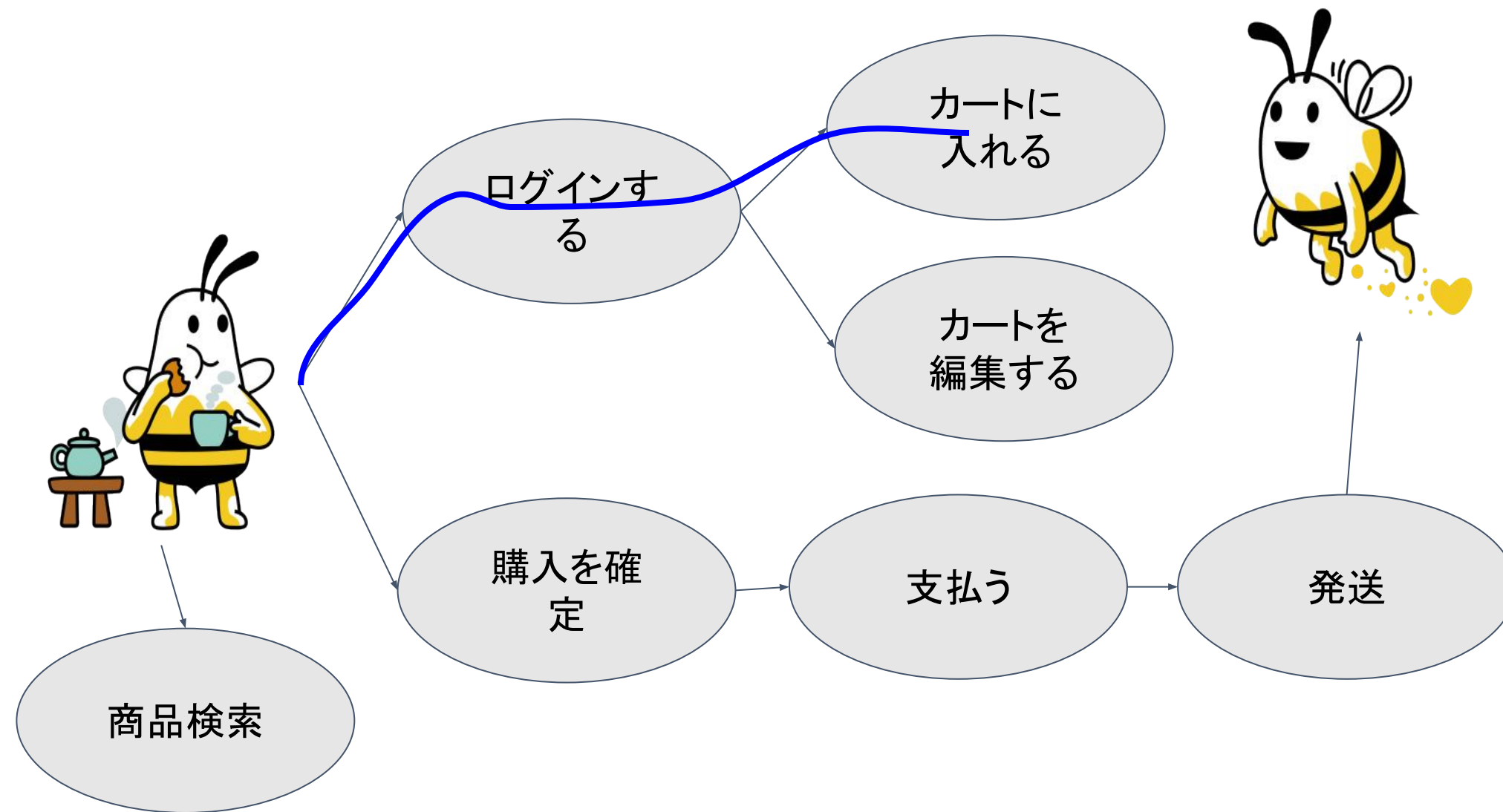
コンポーネントやシステムの外的な振る舞い(=期待)を自動化したもの

=自動テスト はそのままガードレールたりえる

セキュリティではなく機能性やユーザージャーニーのガードレール

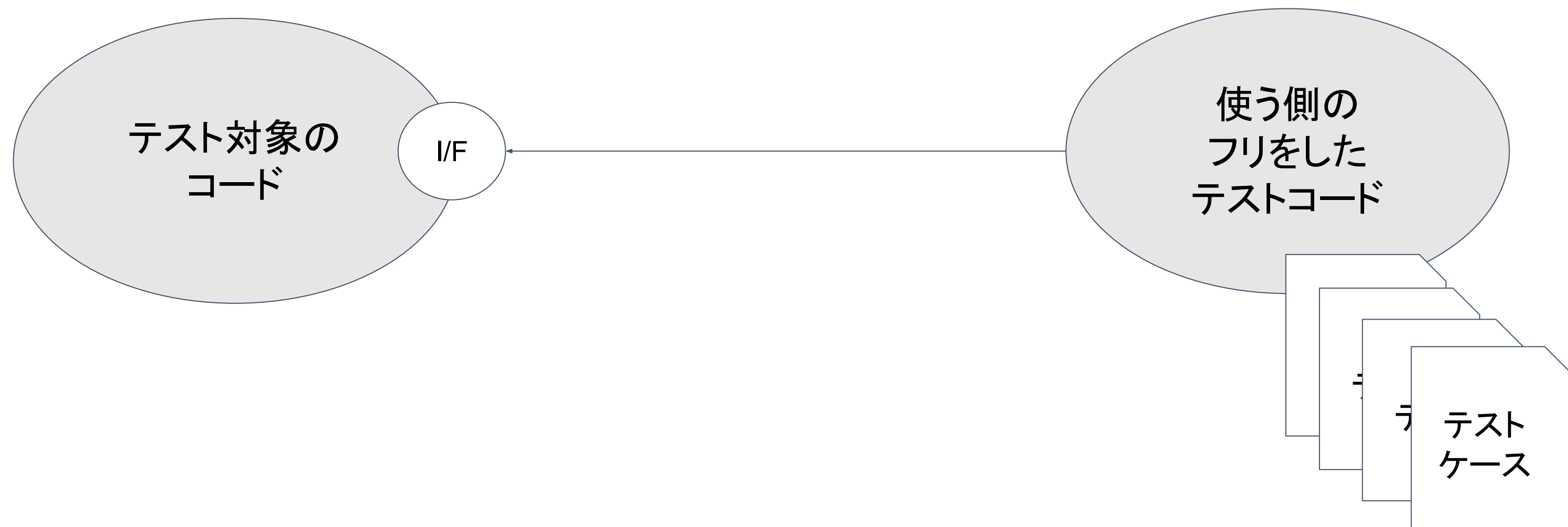
E2Eテストはユーザーとの約束事

アプリケーションのコードでユースケースは表現できないが、
テストコードでは表現できる



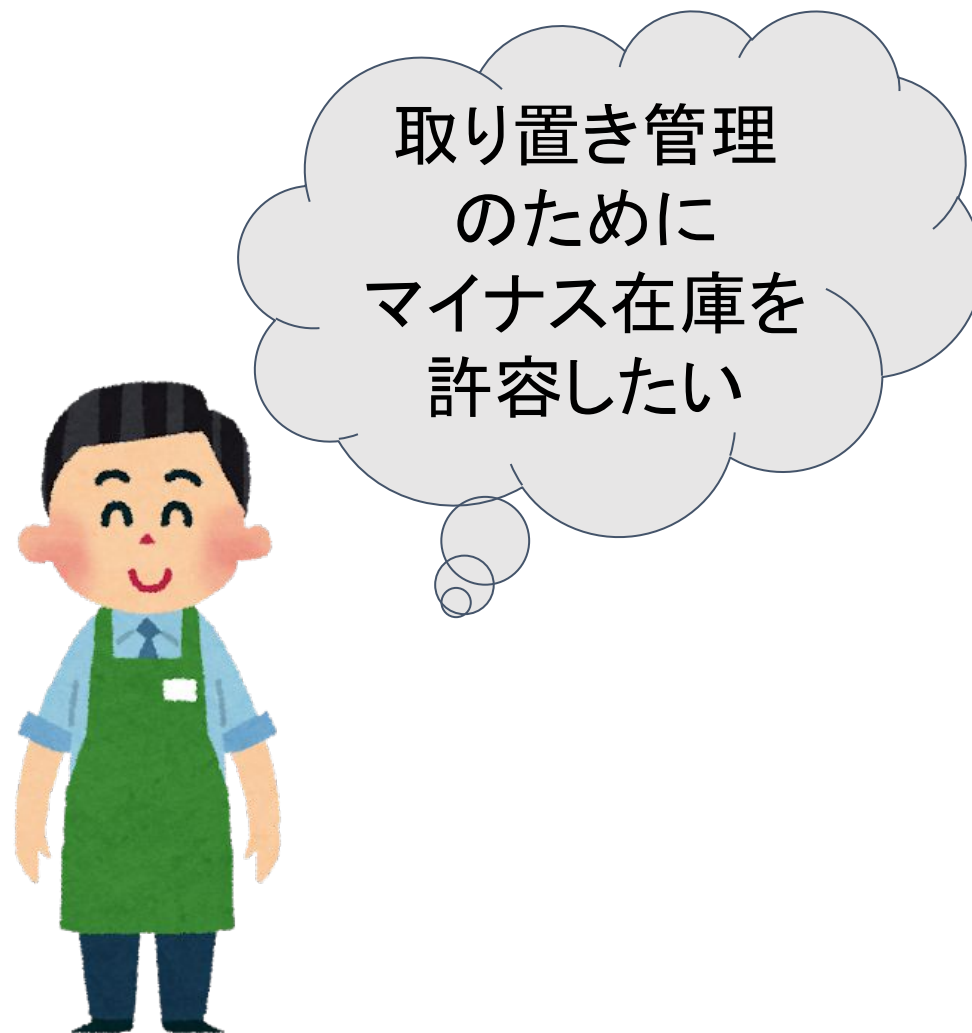
テストコードはテスト対象に依存する

依存関係にあるコードなので
テスト対象のふるまいが変わるとテストコードは動かなくなる



こういうケースを開発中に見つげられると嬉しい

Aさんの要件変更リクエストが
Bさんのユースケースを壊すことをキャッチしたい



テストをガードレールとして使うために

開発の早い段階からテストを回せるようにする

- CI/CDパイプラインでの実行
- ローカル環境での実行

SaaSツールなどで実行回数課金になっている場合は注意

- 高速でないとストレスがたまる
- 決定性(安定性)を重視

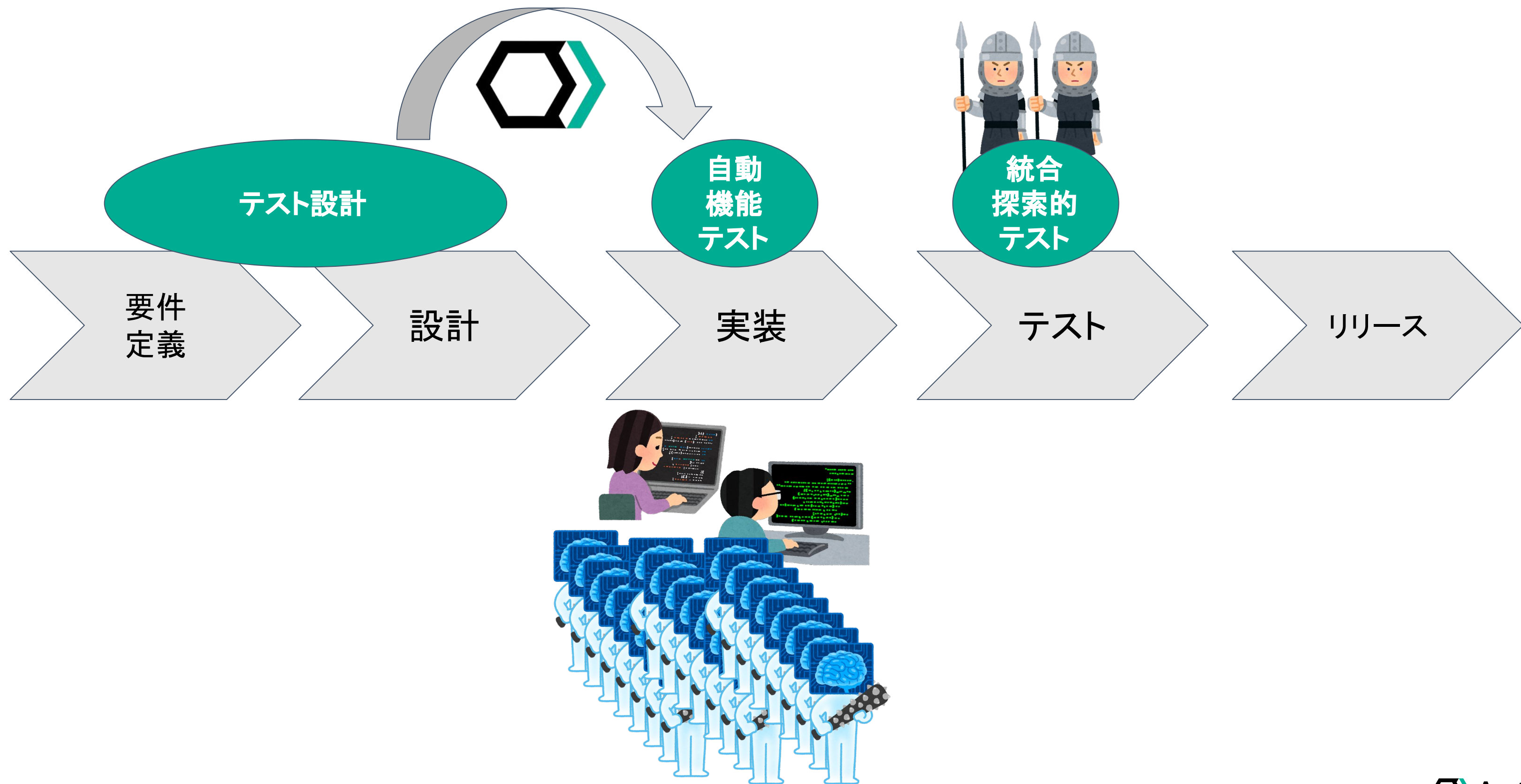
生成AIを用いる場合も
ここのバランスを取る



チームで最大の効果を出すために

ソフトウェアへの期待をテストに落とし込み
ガードレールの中で最速で走れるようにしよう

AIが作ったもののテストは AIにやらせるという方法も



要件 & テストの属人化解消により 一気通貫で業務全体をAIで仕組み化、開発プロセスを加速

要件定義

テスト設計

テスト実装

テスト実行

改善

 **Autify Nexus**



テストデザイン
エージェント



テスト自動化
エージェント



テスト実行機能

アジャイルチームや複数システムの
繰り返しテスト業務を一気通貫で自動化

自然言語によるシナリオ自動作成

テスト設計

テスト実装

テスト実行

改善

自然言語による検証動作の入力によりテストシナリオを自動生成
シナリオ作成時間を劇的に短縮・安定したテストシナリオを実現

①AIエージェントをクリック

The screenshot shows a web browser window with the URL <https://staging-autifyjp.webflow.io/demo-form-for-test-jp>. The page title is "テスト用デモフォーム" (Test Demo Form). The form contains several input fields: "お名前 (名)" (Name), "Autifyのプラダクト" (Autify Product), and "組織の総従業員数" (Total number of employees). There is a "送信する" (Send) button at the bottom. On the left side, there is a sidebar with a button labeled "AIエージェント" (AI Agent) and a "完了" (Complete) button. Below the sidebar, there is a section titled "AIエージェントがサイトを分析できるようになりました。" (AI Agent can now analyze the site). It includes a list of examples: "「ログインフローのテストを手伝ってください」" (Help me with the login flow test), "「言語を日本語に変更し、言語が変更されたことを確認します」" (Change the language to Japanese and confirm the change), and "「商品ページを開覧し、商品をカートに入れて」" (View the product page and add the product to the cart). At the bottom of the sidebar, there is a note: "AIエージェントは実験的な機能です。意図した結果が得られない可能性があります。AIエージェントについて詳しく知る" (AI Agent is an experimental feature. The intended result may not be achieved. Learn more about AI Agent).

②入力スペースに操作内容を記載

③AIエージェントが操作 (ステップ) を実行

The screenshot shows the same web browser window as before, but now the "AIエージェント" (AI Agent) button is highlighted. The form fields are filled with test data: "テスト株式会社" (Test Co., Ltd.), "営業部" (Sales Department), "一般社員" (General Employee), and "情報通信・IT" (Information Communication & IT). The "Autifyの導入を検討しますか?" (Are you considering introducing Autify?) section has "自社で導入を検討" (Considering introduction by our company) selected. The "送信" (Send) button is visible. On the right side, there is a sidebar with a button labeled "AIエージェント" (AI Agent) and a "完了" (Complete) button. Below the sidebar, there is a section titled "AIエージェント NEW AIアシスト" (AI Agent NEW AI Assist). It includes a message: "最適なツール：view_page を使ってページ内容を確認します。" (Use the optimal tool: view_page to check the page content). Below this, there is a section titled "使用ツール：view_page" (Use tool: view_page). It includes a list of required information: "お名前 (姓)" (Last name), "お名前 (名)" (First name), "勤務先Eメール" (Work email), "電話番号" (Phone number), "会社名" (Company name), "部署名" (Department name), "役職 (プルダウン選択)" (Position (dropdown selection)), "業種 (プルダウン選択)" (Industry (dropdown selection)), "Autifyの導入検討有無 (プルダウン選択)" (Whether to consider introducing Autify (dropdown selection)), and "プライバシーポリシー同意のチェック" (Check for privacy policy agreement). At the bottom of the sidebar, there is a note: "次のステップ：iframe内のフォームに必要な情報を入力します。まず、「お名前 (姓)」フィールドから入力を始めます。" (Next step: Enter the required information in the form in the iframe. First, start entering information in the 'お名前 (姓)' field).



技術の力で世界中の人々の創造性を高める

